

**未来社会創造事業 探索加速型探索研究**  
**事後評価結果**

1. 領域

「個人に最適化された社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

他者とのインタラクションを支えるサービスの創出

3. 研究開発課題名

多様な子どもの幸福な学校生活を支える技術開発

4. 研究開発代表者名(機関名および役職は評価時点)

千住 淳(浜松医科大学子どもこのころの発達研究センター 教授)

5. 評価結果

評点: S 特に優れている

総評:

本研究開発課題は、健康観察データから子どもの心身状態や学校風土を形成する環境を計測する技術、および子どもの生理信号を非接触で測定するリモートセンシング技術の開発により、メンタルヘルスや不登校の予測モデルを確立し、不適應やいじめ、不登校リスクのある子どもの早期発見と予防的介入システムの構築を目指す。加えて、社会情動能力育成プログラムや教員向け支援プログラムの開発を通じて、子どものメンタルヘルス低下と社会適応を支援する持続可能なシステムの実現を目指す。

探索研究期間では、子どもの心身状態の変化や学校風土の状況を、主観と客観の両面から検出し、予測することに成功した。これにより、子どものメンタルヘルス低下や不登校等を早期に発見するシステムの構築に道筋をつけたことは評価できる。さらに、学校現場と密に連携しながら、本研究を精力的に推進し、デジタル技術と支援プログラムが一部の学校で実装された点も高く評価できる。

今後は、本格研究に取り組むなかで、いじめ抑止や不登校削減の効果を具体的数値で示す定量的な評価手法を確立し、介入手法の改善改良に努め、子どもたちを取り巻く環境の改善を定量的に把握することを意識した活動を推進していただきたい。そして、より多くの学校現場への貢献と還元を進め、全国展開や大規模なデータ収集と分析を通して、本格研究での技術開発でさらに発展することを期待する。

以上